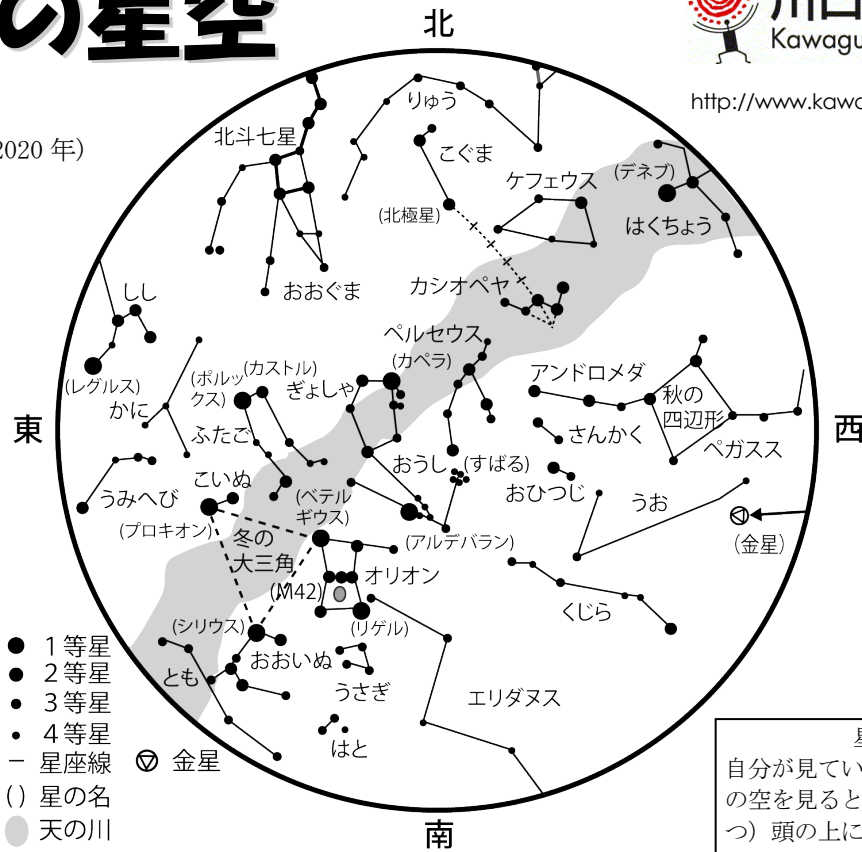


今月の星空

1月 (2020年)

上旬 21 時頃
下旬 20 時頃



星図の見方
自分が見ている方角を下にして、(西の空を見るときは西を下にして持つ) 頭の上にかざして見ます。

月 齢 ●上弦 3日、○満月 11日、◐下弦 17日、●新月 25日
惑星情報 金星 夕方 南西 (やぎ→みずがめ座 -4等級)
火星 明け方 南東 (てんびん→さそり→へびつかい座 2→1等級)

★オリオン座の見どころ

南の空には冬を代表するオリオン座が昇ってきました。まずは1等星のベテルギウスに注目しましょう。この星は、赤色超巨星という星の進化の終末期を迎えていて、太陽の1,000倍ほどの大きさに膨らんだ影響で表面温度が下がり、赤く見えています。その一方で、星が誕生する現場となっているのがオリオン大星雲 (M42) です。星の材料となるガスやチリが集まっていて、望遠鏡を使えば、星雲の淡い広がりや中心部にある誕生したばかりの四重星 (トラペジウム) を観測できます。

★子 (ね) の星「北極星」

今年2020年の干支 (えと) は「子 (ね)」ですが、この子から始まる十二支は、年を数える以外に、方角や時刻にも使われてきました。子は北の方角を表すため、北を知る目印である北極星は「子の星」とも呼ばれます。ちなみに、北極星の高さはその観測地の緯度を表しているため、緯度の異なる場所を訪れた際には、その高さの違いにも注目しましょう。つまり、北緯35度の川口では約35度、北海道 (札幌市) では約43度、沖縄 (那覇市) では約26度、北極点では真上 (90度) の高さに見えます。

★宵 (よい) の明星「金星」が観望シーズンへ

夕方、南西の空には、ひととき明るい金星 (-4等) が見つかります。この金星をはじめ太陽系の惑星は、地球からの見かけの動きが複雑になるため、見える時期や場所はいつもの同じではありません。

右図のように、金星は地球よりも内側の軌道を回るため、地球から見たときに、太陽から大きく離れられず、主に夕方が明け方にしか見られません。なお、前回の外合 (2019年8月) から次の内合 (2020年6月) までは太陽の東側 (宵の明星)、内合から再び外合の位置に戻るまでは太陽の西側 (明けの明星) にあり、約9か月毎に入れ替わります*。

*内合や外合の前後の時期は金星が太陽に近すぎるため観測できません。

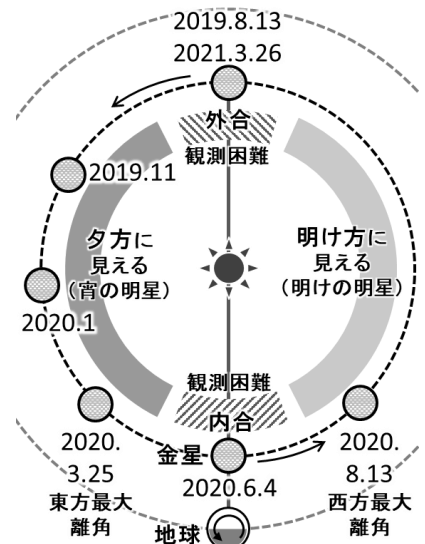


図 金星・地球・太陽の位置関係